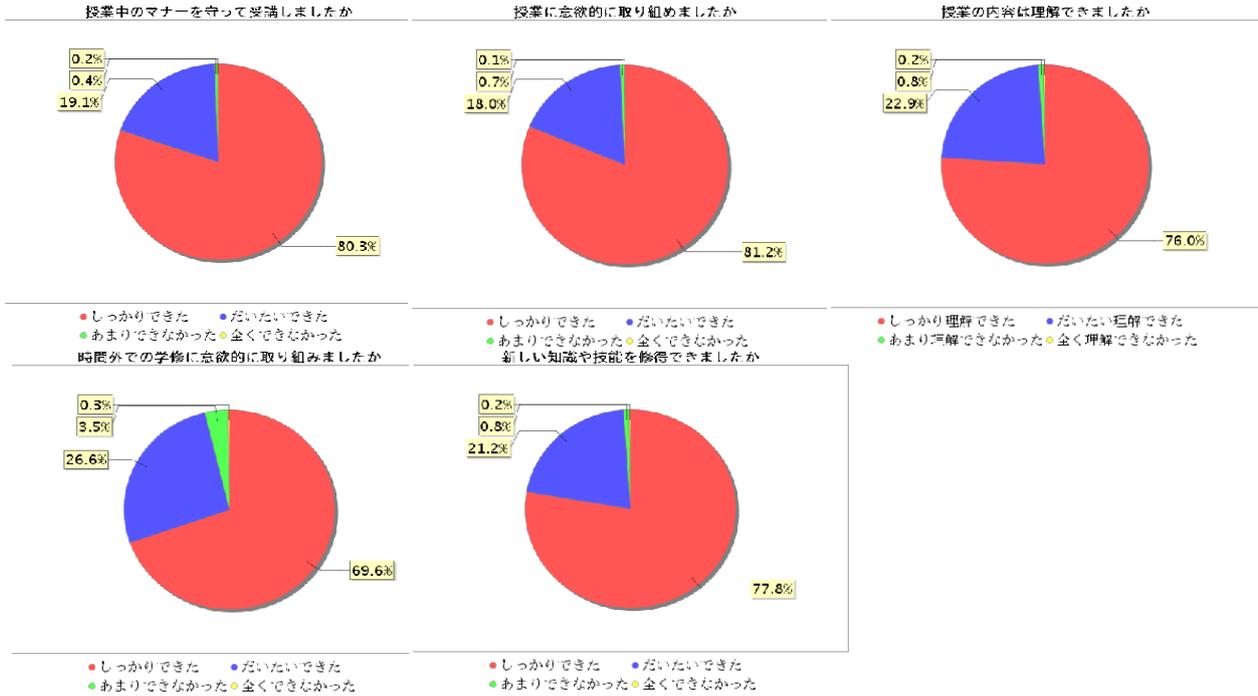


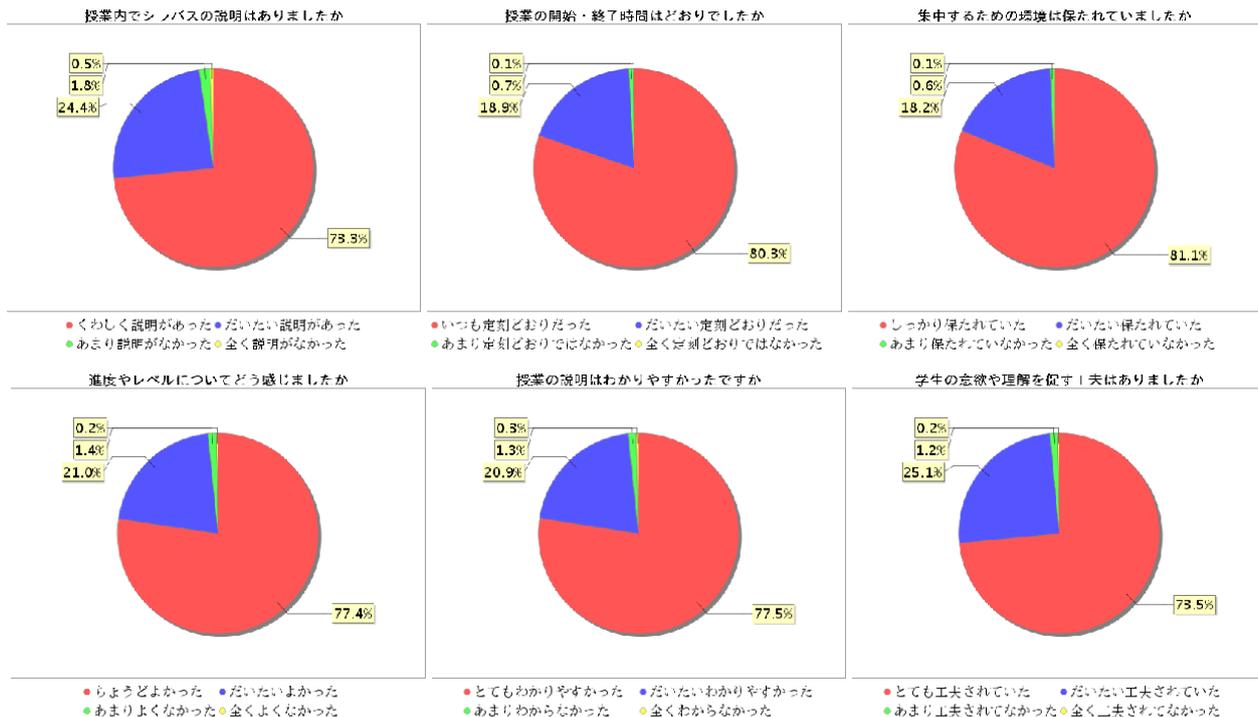
後期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和5年度後期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 自己評価の結果



□ 授業評価の結果



〈今回の結果からわかること〉

1. 授業評価の実施について

今年度前期の授業評価と同様に後期の授業評価を実施しました。

- 講義系・実習系の授業を区別せず、全科目同様の質問項目での実施
- 自己評価と授業評価に分類

2. 学生による自己評価について

学生による自己評価の結果は、「授業中のマナー」「授業に対する意欲」「授業内容の理解」「時間外での学修に対する意欲」「新しい知識や技能の修得」のいずれの質問に対しても、「しっかりできた」「だいたいできた」を合わせると96%（今年度前期95%）を超えているなど肯定的な評価がほとんどでした。これは、多くの学生が前向きで真面目に学生生活（授業）に取り組んでいることの証であると言えます。

しかし、より一層充実した学生生活を目指すために、「しっかりできた」との回答に焦点を当てて分析すると、「関心・意欲・態度」を測る「授業中のマナー」と「授業への意欲的な取組」については80%（前期70%）を超えていますが、「時間外での学修への取組」については69.6%（前期67.6%）とやや低い結果となっています。

さらに、「あまりできなかった」が3.5%（前期4.0%）、「全くできなかった」が0.3%（前期0.4%）と、他の質問には見られない結果となっています。このことから、確かな学力とより高度な技能を身に付けるためにも、「時間外での学修への取組」の改善が課題であると考えられます。また、「授業の内容理解」と「新しい知識や技能の修得」についても、それぞれ76.0%、77.6%（前期71.6%、75.5%）と、意欲に関する質問と比較すると若干低い結果となっています。

このことから、さらに充実した学生生活（授業）の実現のためにも、より魅力的かつ有益な指導を行うための継続的な授業改善が求められていると考えられます。

3. 学生による授業評価について

授業評価についても自己評価と同様、いずれの質問に対しても肯定的な回答が95%を超えており、授業に対する学生の満足度が高いことが分かる結果となっています。

しかし、自己評価の分析と同様に、質問に対する最も高い評価の結果だけに着目するといくつかの課題が見えてきます。まず「授業の開始・終了時刻」と「集中するための環境」に関する質問については、いずれも肯定的な評価が75%を超えており、多くの学生が授業を受ける環境に十分満足していることが窺えます。

一方、「進捗やレベル」は77.4%（今年度前期73.8%）、「説明のわかりやすさ」については77.5%（前期73.1%）、「意欲や理解を促す工夫」については73.5%（前期70.6%）、さらに「シラバスの説明」については73.3%（前期71.5%）と、授業そのものに対する満足度は、前期より良い傾向は見られるが、環境に対する満足度と比較すると若干劣っている結果となっています。

このことから、自己評価の結果からわかった課題と同様、より一層の授業改善が求められていると考えられます。

後期授業評価 『教員から学生の皆さんへ』

令和5年度後期の学生による授業評価に対して、教員から学生のみなさんへの回答をまとめました。

専門科目

◆ 科目名（学科名の略 学年）

【幼児教育学科】

◆ 幼児と音楽表現 I（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取組に関する評価」の結果をから、学生のみなさんが授業に積極的に参加をし、知識技能の修得ができたこと実感していることがわかります。とても嬉しく思います。授業は、学生のみなさんと教員と双方で創り上げていく一面もあります。「授業の取組に対する評価」でも高評価を得られたのは、みなさんの学ぶ意欲があったからこそ、教員サイドもそれに答えることができました。しかし工夫面では、他の項目よりも少し評価が低く出ましたので、今後は創意工夫を試み、「参加したい授業」と思ってもらえるような授業にしていきたいです。

2. 今後の授業における目標

この授業はクラス授業と個人レッスンとで構成されています。クラス授業では、常に最新の情報をもとに授業を組み立てていきたいと思えます。ピアノの個人レッスンでは、レベルに合わせた極め細やかなレッスンを引き続き行いたいです。

3. 受講学生に対する要望

クラス授業では知識や技能の修得と共に、様々な体験を通して感性を磨いていきます。人からの評価を気にすることなく、積極的な姿勢で授業参加をしてください。また、毎回異なる内容での演習授業となりますので、欠席しないようしていきましょう。ピアノの個人レッスンでは、課題に対してコツコツと努力することを惜しまないでください。必然と結果はついてきます。一緒に頑張ってください。

◆ 保育内容「人間関係」の指導法（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

今年初めて担当する科目であったが、学生が学修内容について一定の満足感を感じてくれたことが分かった。実習前の学生が子どもの姿や保育の実際をイメージできるよう事例や補助教材を使用したことで、新しい視点や具体的な援助方法が理解できたとのことで、今後も継続して取り組みたい。

2. 今後の授業における目標

今後もより実際の保育現場に通じるようにしたい。遊びや子どもの育ちについても体験的な学修が有効であると感じたため、次年度も体験的な演習授業を増やしたい。またシラバスの理解と活用、授業展開の工夫についても次年度の課題として取り組みたい。

3. 受講学生に対する要望

今後も学生がどのようなことに関心があるのか、どのような知識や技術を求めているのかを、科目を通じて私自身も学びながら、共に成長できればと思います。

◆ 障がい児保育 I（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組、授業の取組に対する評価は、おおむね良い評価であったと思います。障がいを知るこ

と、障がいの捉え方、障がい観など、とてもデリケートでかつ難しい課題に対して、学生自身が真摯に向き合って授業に参加する姿が印象的でした。専門的な用語の定義や理論はもちろん大切ですが、障がい児を学ぶ一番初めの科目なため、絵本や映像を教材として、視覚的に障がいをイメージできることや、障がいのある子や人の心情に触れることを主活動にしたことが、学生の動機付けにつながったと感じています。一方、眠くなる進行であったとの指摘もありました。知識を得るだけでなく、もっと互いに意見を交流したり、興味のあることを調べたりする能動的な活動を取り入れる必要があったと反省しています。

2. 今後の授業における目標

様々な障がいを知識として学ぶと障がい児、障がい者が特別な存在になりがちです。障がいがあってもなくても、人には得意と苦手が誰にでもあるように、一人ひとりの合わせた保育が大切であることを理解できるよう授業を展開していきます。まずは、同じ環境で学ぶ学生同士が互いに尊重し合い、よりよい学修、生活にしていける関係性こそが、一人ひとりに目を向けられる保育者としての資質だと考えますので、互いに高め合うための授業づくりに心がけます。そして、授業内で一人ひとりの意見や考えが尊重され、自分の力が発揮できる場を保障した授業を目指します。

3. 受講学生に対する要望

毎時、多くの学生が授業に真剣に取り組み、レポートにも自分の思いや考えをしっかりと表現できていました。担当する教員は変わりますが、障がい児保育Ⅱ、特別支援教育、特別支援教育研究、療育応用技術演習等にこの科目は発展していきます。子どもも大人も、「みんなちがってみんないい」の言葉どおりそれぞれの個性を大切にできる保育者を目指して、より広くそして深く学びにつなげ、また他科目や実習と関連付けた実践力を身につけほしいと願っています。

◆ 幼児と造形表現Ⅰ（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

幼児と造形表現Ⅰの授業評価を受けて、これまでの取り組みを振り返りました。アンケートの意見を受け止め、感謝の気持ちでいっぱいです。特に、作り上げる体験を重視した授業スタイルが、みなさんの関心を引きつける効果があったように感じます。一方で、グループワークと個人制作のバランスや、授業外課題の頻度に関して、より配慮が必要だと感じました。今後は、より効果的な学修経験を提供するために、これらの点に重点を置いて改善を図ります。

2. 今後の授業における目標

幼児と造形表現Ⅰの今後の授業における目標は、より充実した学修環境を提供することです。保育技術としての折り紙などの授業外課題を通じて、学生が自己表現や創造性を発揮できるようサポートします。また、授業環境や制作環境の快適性を向上させるために、教室の整備や教材の充実に努めます。個人差を考慮しつつ、学生と協力して授業を進め、それぞれの学びのニーズに応えることを目指します。

3. 受講学生に対する要望

学生の皆さんへ。今後の授業に向けて、ご協力をお願いします。授業外課題やグループワークにおいて、自由な発想や積極的な参加をお願いします。また、授業環境の改善に向けて、何か提案や要望があれば遠慮なくお知らせください。皆さんが快適に学べるよう努めます。今後も学びの場を共に築いていきましょう。

◆ 保育内容「言葉」の指導法（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

私は、現場経験の話を織り交ぜながら、学生の皆さんにとって保育現場で役立つような授業内容を意識してきました。「先生の過去の経験を基にお話される方がいいと思います。先生なりの熱

意のある講義が好きです。」というコメントをいただき、ありがとうございました。とても励みになります。

授業の前半では、絵本の引き出しを増やしてほしいとの願いで「絵本ノートの作成」にも取り組みました。実習や子育てサロンぷっぷあで保護者と関わる際、年齢に合わせた絵本のアドバイスを求められることも多いからです。皆さんから「知らなかった絵本や紙芝居に触れることができた。」「絵本をどう選んだらよいかかわからないが多かったが、分かるようになってきた。」等の評価をいただき、とても嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

「マーカーを引く部分が多かったが、引く場所が伝わりにくかった。」という指摘について、大切な部分については、その都度、確認しながら、より丁寧に授業を進めていきます。また、振り返りシートを通して、皆さんの知識の理解度を把握し、保育技術だけではなく、知識の定着についても、工夫を凝らし、皆さんが主体的に楽しく学ぶことができる授業にしていきたいと思います。

今後は、学生の皆さんが将来、保育者として、子どもたちのつぶやきや保護者の思い等を聞き逃さず大切にしていくためにも、授業の中で、自らメモを取ったりマーカーを引いたり、ポイントについて、わかりやすくまとめる力をつけていけるようにサポートしていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

皆さんが熱心に授業や学修に取り組む姿は、とても嬉しく思います。授業での疑問点については、そのままにせず、研究室をたずねて教員に質問したり、学生同士で学び合ったり、相談しながら自ら問題解決していけるよう、これからも継続して努力していきましょう。

また、日頃から、大学の図書館を積極的に利用しましょう。休日は、地域の図書館等に行き、おはなし会に参加するなど、絵本や紙芝居を中心とした児童文化財に触れ、心豊かな保育者に成長していきましょう。

◆ 乳児保育Ⅱ（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

乳児保育Ⅱでは、まとめとして、乳児保育の引き出しを増やしてほしいとの願いで「0.1.2. 歳児の発達に合わせた手作りおもちゃづくり」にも取り組みました。今後の部分実習や子育てサロンぷっぷあで保護者と一緒に手作りおもちゃを作る際に役立つからです。皆さんから「子どもにとってどんなおもちゃがいいのか、考えながら作るのが楽しかったです！」等のコメントをいただき、とても嬉しく思います。

また、振り返りでは、お互いの手作りおもちゃについて、良い点や改善点について話し合い、改善点を取り入れた作品を最終課題として提出してもらうようにしました。

現場では、チーム保育が大切です。皆さんが授業を通して、他学生とのコミュニケーションの取り方について学び、互いに意見やアドバイスを素直に取り入れることができる保育者になれるようサポートしていきたいと考えています。

2. 今後の授業における目標

「保育所保育指針に触れながら、事例などを踏まえて前期よりも発展的な授業内容で良かったです。」とのコメントをいただきました。「保育所保育指針」は、保育のバイブルであり、とても大切なことが記載されていますが、乳児保育の部分については、自主学習では理解が難しい部分があるため、授業の中で一緒に確認したり、復習したりしながら、丁寧に授業を進めていきたいと思います。

今後も振り返りシートを通して、皆さんの知識の理解度を把握し、保育技術だけではなく、知識の定着についても、穴埋めやクイズ形式のプリントを用意するなど工夫し、皆さんが主体的に楽しく学ぶことができる授業にしていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

皆さんが熱心に授業や学修に取り組む姿は、とても嬉しく思います。課題の提出期限を守る習慣を身につけるようにし、保育所保育指針の理解が不十分なところや授業での疑問点については、そのままにせず、研究室をたずねて教員に質問したり、学生同士で学び合ったり、相談しながら自ら問題解決していけるよう、これからも継続して努力していきましょう。応援しています。

◆ 教職論（幼1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

保育専門職としての在り方や責務等を学ぶ科目として、キーワードや法令・制度に関する事例や資料提示、意見交流し授業を進めた。授業時間や授業環境において高い評価を得られた。「事例やコラムについて考え意見を出せた」「自分で記入することで記憶に残った」という感想がある反面、スライドを写すのに精一杯という感想があり、進捗等の評価が低かった。

板書を写すのが授業という捉え方をする学生が多く、授業後に課題とともに自分でテキストや資料を読んでまとめるという意識や学修習慣にならなかったのが残念であった。

2. 今後の授業における目標

学生が学修内容を深め、知識を定着するために、時間外学修において予習を行い、課題をもって授業に臨むような学修習慣の確立に努めたい。

3. 受講学生に対する要望

将来、保育職として、子どもの安全と保育を徹底して守れる技量を高めてほしい。難しいことや与えられることをこなすという安易な考え方ではなく、自ら進んで課題を見つけ解決するような活動に取り組んでほしい。また、時間や期限を守ることは、社会人として当たり前のことであり、自己管理をしっかりとしましょう。

◆ 教育相談（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

項目得点はすべて平均以上ではあったが、その中で得点の低かった項目（シラバス、工夫）については、自分としては意識して取り組んでいたつもりであったため、意外だった。自由記述のコメントからは改善方法が見出せないため、授業の内容をもう一度振り返り、改善点を見つけて対応する。

2. 今後の授業における目標

毎回の授業を理解し楽しむことと同時に、シラバスを用いて授業の到達目標とそこまでの道すじを明確にし、知識や技術を着実に積み重ねているという実感を持てるようにする。

3. 受講学生に対する要望

15回の授業を受ける中で保育現場での実践に使える知識や技術を少しでも身につけられると良いと思います。机上の勉強だけではなく日常生活の中で応用できる視点や技法を得て、今後の実習や仕事に活かしてほしいです。

◆ 保育内容「環境」の指導法（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期の「幼児と環境」で学修したことを更に深められるように、体験と自分なりに考える取り組みだけでなく、他学生と学び合いができるグループでの取り組みも多数行いながら体験したり、展開したりできるようにしました。実際にこども祭での遊びや安全の環境について、他学生と協力し合いながら実践する姿となり、環境設定の工夫の大切さや教材研究の必要性、人的環境の影響の大きさを実感してもらえたと思います。また、外部講師によって、今まで学修した知識を楽しみながら専門的で具体的な内容で保育に繋がる学修ができたと思います。

2. 今後の授業における目標

畑（植物）や木育（自然遊び）の外部講師から専門的な知識を私自身も得ることができましたので、その知識をいかして前後の学修内容や展開の工夫に努めていきたいと思ひます。また、今の保育現場での環境の工夫や大切にしている内容、ICT や ESD・SDGs などの新しい時代の教育的課題についてもしっかりと学修できるように得られた情報や知見を授業にいかしていきたいと思ひます。

3. 受講学生に対する要望

外部講師の先生方が、学生の素直な反応や意欲的に楽しく学修に取り組む姿に感心をされていました。子どもの見本となる人的環境の保育者が環境に関わる姿、「感性」が大きく影響しますので、楽しむときは、楽しみ、やる時はやる、疑問に思つたことを質問したり調べたり挑戦してみたりなどできる学生でいてほしいと思ひます。そしてその気持ちをもつた保育者になってもらいたいと思ひます。

◆ 保育総合表現（幼3）

1. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度から大学の授業に入ることになりました。昨年度の反省点を本年度は改善できるよう、9月から気づいた点を、生徒たちに伝えるよう積極的に声をかけるように務めました、その中でも、生徒たちの自主性を大切に、生徒たちの意見に耳を傾け、意見を引き出すようにしました。

2. 今後の授業における目標

本年度は、人数が多く、後期から授業に参加しているため、全員の生徒の特色や名前が把握することに、時間がかかったため、次年度は、更に早く把握できるよう努めたい。

積極性が低い生徒に対して、もっと力を引き出す方法がなかったかと反省。全員が、積極的に授業に参加できるよう、サポートしたい。

3. 受講学生に対する要望

授業が開始したら授業に関係のないものをしまう、他事をしないなど、切り替えをしてほしい。他の、担当のグループとの連携をもっと密にとる。

◆ 特別支援教育（幼3、音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

障がい児保育Ⅰ、Ⅱを踏まえて学べるようにしました。説明の評価は高かったのですが、工夫の評価が低かったです。写真等を活用しながら自分自身の体験を踏まえて進めましたが、伝えることが多くなってしまったことによる評価であると感じました。

2. 今後の授業における目標

評価の低かった授業の工夫については、映像は活用しながらも、伝えるだけではなく、問題提起としたり、気付かせたりするような活用方法を取っていきたくと思ひます。そのことにより、学修に主体的に向かえたり、思考したりする姿に繋がると考えます。また、保育現場での気付きにもつなげていきたくと思ひます。

3. 受講学生に対する要望

保育の現場には気になる子どもたちに出会ったときに、学んだことを結びつけられるようになって欲しいです。来年度の保育実務研修で、この時間の学びを活かしてください。もし悩むことがあったら、遠慮せずに研究室に相談に来てもらえると一緒に振り返ることができると思ひます。

【デザイン美術学科】

◆ ストーリー演習（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

受講学生の人数は多くないが、受講した者が大変意欲を持って取り組んでいたことが分かるし、内容も濃いからこそ、進度レベルでも満点がついていると思うが、頭で考えたことを形にする過程で、個々の学生自身の「考える力」に委ねる時間が多く（教える側としては、それは待つ時間となる）、学生から見ると教員側の説明や工夫が、やや足りない、捉えられたかもしれないと感じた。

2. 今後の授業における目標

上記のように、学生にゆだね、待つ末時間がどうしても必要となるが、どのように説明すれば学生の気づきにつながり、学生が考えたことを形にするための時間を少しでも短くできるように、説明の仕方を工夫していく。

3. 受講学生に対する要望

この授業に限ったことではないですが、無から有を生み出すことはできません。ヒントを得るには見る・聞く・体験することが絶対です。創作活動に対し能動的であってください。

◆ セルフプロモーション（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

アンケートへのたくさんのコメントをいただき、ありがとうございました。

セルフプロモーションについて、意義を通じて、志望動機や自己PR作成に向き合ったコメントがあり、良かったです。今後も役割と意義を説明し

この授業で身に付けたスキルを積極的に活用できるように支援していきたいです。

2. 今後の授業における目標

授業では、役割と意義を共有し、基礎スキルを体得し、今後の制作のために、豊かなビジョンが描け、実現化できる学生を育てていきたいと考えます。

それにより、個々の特性に合った指導に努め、成果を実感できる授業にしていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

この情報社会において、何が基礎スキルとなり、何が応用スキルとなるか、また、新しいことにチャレンジする中で学修していく意義や重要性について学生との共有が必要と感じた。

基礎科目での受講の在り方。応用科目での受講の在り方。

学科ディプロマポリシーや就職先を見据えた、個々の学修到達点と学修領域の教員と学生との共有が、大切な観点であると考えます。

時に、一心不乱に絵を描いて自分を見つめてみよう。

時に、評価された「もの」や「こと」にいっぱい触れ、共感体験をしてみよう。

時に、評価されたものの「意味と価

◆ CGキャラクター（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

【進路の意欲と、実現に向けた取り組み】を実感（学生コメント例）

- ・「キャラクターの作り方や maya の操作がよく分かったし、内定のことを考えた授業ペースでも良かった。」
- ・「全く触れたことのなかった CG がいちから丁寧に学べた。就職へのサポートが手厚いので頑張ろうと思える。」
- ・「ゲーム、アニメ会社の内定時期も含めて CG について学べたこと。classroom に作り方を貼ってくれること。」
- ・「就活に関わる本格的な内容になっていて、難しいながらも頑張ることが出来ました。授業の内

容、モデルの作り方だけでなく具体的な計画の目安、就活に関する話も沢山してくださって自分の目標や将来の設計図を考えながら授業を受けることが出来ました。」

【授業の工夫】

- ・「制作の改善ポイントを、順に実演。画面共有で、受講生それぞれ応用」
- ・「ステップごとの図解を提供（携帯閲覧可）。教科書と合わせ予習を実現」

2. 今後の授業における目標

「放課後、春休み」就職に向け、授業時間外の教室制作を、今後も支援していきたい。

3. 受講学生に対する要望

放課後、春休み制作。就活を実現する柱です。

「時間を、何に使うか」毎日大切な選択です。

◆ コミックキャラクター（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

商業紙で通用するレベルのキャラクターを制作することを目的とした授業であったがなんとか予測したラインに近いレベルまでは達成できた。

当初から難しいことは予測していたので解決策として「学生それぞれが普段から描いているキャラクター」を使用させ、キャラクターのブラッシュアップ（より生きている人間に近づける）に集中できる流れを作ったことが良かったと思われる。

2. 今後の授業における目標

他コースの学生も履修している授業で心配であったが、全体的に学生が楽しんで課題制作を行えた様子だった。今後は更に一步踏み込み「エンタメにおけるキャラクターの重要性」を正しく理解し即戦力となる学生を見出していきたい。

3. 受講学生に対する要望

「エンタメにおけるキャラクターの重要性」は「好きな事を押し付ける」のではなく「滅私」の思考が重要であることを徐々にでも良いので理解して行って欲しい。

◆ ビジネスモデル論（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の取組に対する評価については、①シラバス、②授業時間、③授業環境、④進捗レベル、⑤説明、⑥工夫の全ての項目において、学科、全学共に平均を超えており、たいへんに良い結果だったといえます。また自由記述欄においても、「様々な業界に目を向ける良いきっかけだった」「一般職への視野がひろがった」等あるように、狙い通りの成果をあげたと考えています。

2. 今後の授業における目標

来年度からはハローワークからのサポートがなくなるため、とくに自己分析(就活アセスメント)についての具体的なフレームワーク等を選抜し、対応を早急に固めたいと考えています。その他、今年度の内容を落とすことなく、現行社会情勢に合致した各トピックを精査していこうと考えています。

3. 受講学生に対する要望

前年度の履修者が感想として書かれてある通り、専門性(デザイン美術)の高い本学科ではあって、一般職への視野を養う上でたいへんに重要な科目と思います。自分自身の将来を考えるヒントを見つけ出してください。

◆ デザイン美術学科 動画基礎 I（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

AfterEffects が用意されておらずシラバスに沿った授業ができませんでした。動画制作を学ぼう

と入学しこの授業に期待していた学生もいました。学生には2年しかありません。貴重な時間を妨げることがないようにお願いします。

●指導の工夫

AEが使えないため、別の動画編集アプリの紹介や動画制作の知識を意識して指導しました。制作の各段階で個別対応を行いました。

一人ずつ時間を取って話すことで、こだわりたい部分を詰めたり、問題点を解消しました。学生作品を私の画面で動かして、動画の完成イメージがどうなるかを見せながら改善点を説明しました。

●資料の活用

学生アンケートで、私の資料が評価されたことが良かったです。全ての学生が理解できるよう授業内容やミニトークでは資料を毎回用意しました。

デザインにもこだわったので、今後の制作に役立てて欲しいです。

2. 今後の授業における目標

AfterEffectsで各自が作りたい動画を作ることが出来るよう指導したいです。

Premiere Proの活用も指導したいです。

これからも、内容だけでなくデザインも学生の参考になる資料を作りたいです。

3. 受講学生に対する要望

集中力が高く、毎回静かに制作していて感心しました。

企画から完成までブレることなく制作できている点がとても良かったです。

アドバイスしたことを次回には改善できていて、よく話を聞き実行する力を感じました。

私がオンライン対応であること、AfterEffectsが使えないという状況に学生は戸惑ったと思いますが、意欲的に制作に取り組んでくれました。野原先生と学生のご協力に大変感謝しています。

◆ 美術総論（デ2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

諸事情で休講が多くなり、学生に迷惑をかけたので、来年度は体調管理等に気を付けて授業に臨みたいと思う。

今年度は絵画を中心に扱い、わかりやすい資料作りや説明を心がけたのであるが、アンケートでは分かりづらかったという声もあり、こちらも工夫が必要だと考える。

さまざまな絵画作品を学生に見せることができた点はよかったと考える。

2. 今後の授業における目標

講義形式の授業なので、どうしても一方的になってしまうので、授業コメントに対するフィードバックをきちんと行いたいと思う。

学生が少しでも美術史に興味をもち、かつ知識および論理的思考を身につけることができるような授業内容や構成にしていきたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

今年度の授業は内容が高度なものでした。難しいと感じた方もいるかもしれませんが、コメントや試験内容を見る限り多くの方が理解をしてくれていたのがよかったです。美術史というと少々難しいイメージがあるかもしれませんが、機会があれば図書などを手に取ってさらに知識や理解を深めていただければ幸いです。

◆ 絵本（デ2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

生徒の授業評価も実施内容も概ね円形に近く、シラバス通りに授業が出来た。

課題も多くて大変だったけれど、学生が目的を理解し、真摯に取り組んでくれた。

欠席した生徒には個別に対応し、デジタル、アナログ、教室外指導にも対応出来たと思う。

それぞれが素敵な作品を完成させ成就感を味わえたと思う。私も毎回楽しく授業が出来たし、生徒の感想の評価が良かった事がとても嬉しい。

2. 今後の授業における目標

生徒の状況も毎年変わり、より個別指導の大切さを実感している。

この程度は分かっている、描けて当たり前と言う専門職指導者が陥りがちな対応ではなく、基本の手順に沿ってステップアップして行けるように、より丁寧な対応を心掛けたい。

生徒との会話の中で個性を引き出し、様々な情報を提供出来る様に私自身も学びながら、楽しく受講出来るように工夫して行きたい。

3. 受講学生に対する要望

作品を仕上げるのは大変ですが、完成させた作品は世界で1冊だけのオリジナル絵本になります。毎年期待以上の素敵な作品と出会えるのはとても嬉しいです。

デジタル、アナログだけにこだわらず、様々な絵本制作のアプローチがあるので、絵本の奥深さを学びましょう。

たくさん素敵な絵本があります。作り手側として楽しみながら絵本を手にとって下さい。

◆ つなぐデザイン (デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

社会に出る直前の半年間の授業という事もあり、学生自身で決めるべきところとそれに対して自己を過小評価し目標を低く設定している学生に本来目指すべき目標を伝え目標修正する。という点に注意を払い授業を行ってきました。

また会社は個の力が集まる隊である。一人一人が部署の中での役目を理解し期限までに業務を終わらせる。今の働き方改革のスタイルも考慮し、授業時間外での調査(リサーチ)は許可しても制作業務(残業)は許可しない。という点も多くが学生が理解し守ってくれました。

2. 今後の授業における目標

立てた目標に対して、学生の技量はあっても熱意と欠席による時間不足が壁として立ち上がる学生が若干名ですがいました。社会では熱意を持って仕事に取り組み、不必要に休まないという前提ではある事を在学中の二年間に理解させる事が出来なかった事は私はもちろん、関わる講師全体の反省点です。

授業の内容・目標・目的を理解し、企業さんと直接会って現場を見て、考え・デザインし・提案するという一連のストーリー作りは出来ていたので残すは簡単なあと一歩ではあると考えています。

3. 受講学生に対する要望

半年間お疲れ様でした。先生が声掛けし「〇〇までやっておこう」は皆さんの次への成長階段を踏み出すための目標、「いつまでに終わらせよう」は皆さんの強い達成意欲を作っていくための声援でした。

多くの学生がそれを心で理解し、制作に取り組んでくれた事は大変感謝しています。でも先生はもう側にはいてあげられません。皆さんがこれからも自らの可能性を信じ、目標を立て、意欲を持って取り組めばそれが自らへの声援となります。正しいと思う大人像をこれからも探し続けていってください。

◆ 芸術計画概論 (デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の自己評価の中で一番低い評価であった時間外学修について、その展開を再検討して効果的な方策を考えていきたい。

授業への取組については、指導者側の趣旨をよく理解し、各自その内容や理解を深めてくれたことが自己評価として確認でき、期待以上の結果であったので、今後もさらに授業内容の充実を図っていきたい。

2. 今後の授業における目標

後半の授業では課題学習についての時間外学修が必然的に発生するが、講義形式の前半の授業では、毎回の授業の最後を実施する理解確認のための小テストが復習を兼ねてしまうため、その結果として時間外学修での復習の展開が少ないように思われる。

今後の対策として、時間外学修の復習のための小レポートを導入して、学生の学びをより深めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

内面に秘めた「個性」や「情熱」や「若さ」を大切に、興味・関心のあることや挑戦したいことに対して、受け身でなく真面目に積極的に取り組んでみてください。そこから「楽しさ」や「面白さ」が必ず生まれます。そして新たな「感動」につながります。学生の時の「学び」がまさにそれです。

【音楽総合学科】

◆ 専攻楽器Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

自由記述には記されていないが、前期同様、会議、出張等でレッスン日時の変更が多く学生に迷惑をかけた。

2. 今後の授業における目標

次年度は、他教員と2名体制であり余裕が持てるため、予定通り進められるように心掛ける。

3. 受講学生に対する要望

レッスン時に指摘されたことをしっかり練習を行い克服して下さい。

疑問点等は必ず質問し解決して下さい。個性を大切に演奏を心掛けて下さい。

◆ 公務員・一般職試験対策Ⅰ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取り組みに対する評価」において、各教科「マナー」「意欲」「理解」については、学生諸君が非常に意欲的に授業にとりこんでくれたことにまずは感謝したい。各々が目標を定めて学習習慣の定着や、復習を行うことで、一般常識やSPIについての知識が修得できたと考える。

2. 今後の授業における目標

少人数であったがゆえに手厚い解説やフィードバックをすることができた。学生にとって、反復学修する習慣が、知識の深い定着につながるということが分かった。

3. 受講学生に対する要望

一般常識は、コミュニケーションの源です。また、さまざまな分野を多岐にわたり学修することは、単なる知識の修得ではなく、君自身の人間力を磨くことに他なりません。今後も積極的に学修して行ってください。

◆ 吹奏楽実践演習Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取り組みに対する評価」において、「マナー」「意欲」「知識技能修得」については、学生諸君が意欲的に授業にとりこんでくれたことにまずは感謝したい。この授業を通じて、改めて学生

諸君は、楽器が好きなんだと実感させられた。

2. 今後の授業における目標

知識や技術の修得ももちろん大切であるが、何より演奏する喜びを感じられるよう授業を進めたい。今年度は、学外演奏する機会が定期演奏会のみとなってしまったのは残念だったが、その分、学生諸君の積極的な取り組みにより、非常に内容の濃い演奏会を開催することができた。

3. 受講学生に対する要望

音楽には、答えは一つではなくたくさんあります。多様な音楽へのアプローチの仕方を学んでいきましょう。本当に1年間ありがとうございました。

◆ ピアノⅡ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

この科目を含め、ほぼすべての科目で、自己の取組・授業の取組ともに満点評価でした。担当科目のほとんどがマンツーマン指導や少人数での授業なのですが、マンツーマン指導、少人数ならではの細かく充実した授業が評価に繋がったのではないかと思います。この科目は個別レッスンのため、学生一人ひとりの演奏をよく見つけ、良さを伸ばしつつ課題を見付け細かく指導をしています。すべての学生が演奏技術修得のために真摯に自分の演奏と向き合い努力をしていることが毎時間伝わってきましたし、この授業を通して学生自身も自分の成長を実感できたようで、大変嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

個別指導の良さを活かしながら、今後も学生一人ひとりに向き合い、個々の成長を目指したいと思います。また、指導が一方的にならないよう、学生とは音や言葉でコミュニケーションを取りながら、学生が意欲を持って取り組める授業にしたいと思います。指導と学生の鍛錬が相互作用するような授業を心がけたいです。

3. 受講学生に対する要望

演奏力向上のために常に努力している姿には本当に嬉しく思います。バッハのバロック音楽を通年で学びながら、1年次では古典派に始まり、ロマン派の表現法に触れました。2年次ではさらに近現代曲で自由度と表現の世界が広がっていき、よりイメージや自分の考えを持って演奏することが大切になります。楽譜に書かれた音符をただ弾くだけではなく、自己の内面を音で表現することを目指して、授業を通して新たな音楽を探究していきましょう。

◆ 管楽器・業界研究Ⅰ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

今年度より新開講の授業であったが、学生からのコメントで様々な新しい知識が身に付いたとのコメントがあり概ね評価はよかったと感じる。来年度へ向けて内容を見直しより学生にとって身に付く講義内容にしていきたい。

2. 今後の授業における目標

作成したスライドの文字の大きさや進行の時間にもう少し余裕をもち説明できる時間を増やしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

学んだ知識を定着させるためにも復習の時間を作り、自分の知識にてきるような工夫をしてほしい。来年度の授業でさらに深い知識を得るためにもカタログ等を読み復習・予習の時間を取り入れてください。

◆ 音楽療法・基礎（音1）（幼2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

他学生の発表を見るのが勉強になったとの自由記述があった。

受講学生が多く全員に発表させるには時間の制約があったが、クラスメートから刺激を受けることが自分の活動を振り返り改善させるために有用であったと思う。

2. 今後の授業における目標

学生同士の学び合いを大切にしながら授業を進める配分が今後の課題である。

3. 受講学生に対する要望

他の学生の発表は積極的な学びの機会になります。うまくいっている発表だけではなく、失敗しているように見える発表も、どこがいけなかったのか、自分だったらどう修正するかを考えながら見てください。

◆ リペア応用金管ⅡB（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

リペアに関する科目はどれも概ね高評価だったが、時間外での取り組みが前期よりも低い結果となった。

2. 今後の授業における目標

次の授業までに取り組む課題を提示したり、個別に技術指導を行うなど、授業時間外学修への取り組みを積極的にサポートしていく。

3コマ連続した授業で作業時間も長くなるので、疲労が溜まらないよう適度にストレッチなどを行うとよいかも。授業時間外でも集中して作業できる環境をつくる必要がある。

3. 受講学生に対する要望

リペアの授業は長時間の作業が続きます。集中して取り組めるよう、毎日睡眠をしっかりとってください。

また、授業時間外でも技術評価や技術指導などの対応はしていますので、気軽に声をかけてください。

◆ リペア応用(金管Ⅰ)（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価の結果から時間外学修の評価が特に低くなっており、授業時間内での指導が不十分だったと感じました。実習形式の授業がほとんどであり、注意深くそれぞれの進度に合った指導や提案ができるように心がけましたが、時間外学修につながる指導ができていなかったように感じます。

2. 今後の授業における目標

質問があった際、学生を巡回指導する際に、具体的に今後どのようなところに気を付けてほしいか、実習中に自身で判断をする材料になる内容の指導ができるように心がけたいです。

3. 受講学生に対する要望

授業内で気づいた不明点や疑問点は積極的に質問をして、授業外での実習に生かせるように理解を深めてください。実習の成果は担当教員によるチェックを受けて、技能修得につなげましょう。

◆ 鍵盤楽器Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期から引き続き学生一人ひとりとコミュニケーションを取りながら丁寧な対応を心がけレッスンを行うよう努めました。授業評価の結果逆に前期と同じようなレッスンだったため、学生の意欲などが減ってしまったと感じた。

2. 今後の授業における目標

- ・レッスン時間内で曲に対する理解ができるよう端的に伝える。
- ・知識技能習得の為の丁寧な説明をおこない、一緒に練習する。
- ・シラバスの補足を、ガイダンスの時に言い理解を深める。

3. 受講学生に対する要望

レッスン時間が短いので、自身のペースで自主的に練習を進めていけると時間を有意義に出来ると思います。

◆ 音楽史（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

毎回、音楽史に興味を持てるように、板書の内容、取り上げる曲の動画等、準備しました。

2. 今後の授業における目標

音楽史への理解が、演奏力の向上へと繋げて行けたらと思います。

3. 受講学生に対する要望

自分の好みはさておき、様々な時代の曲を聴いて吸収して欲しいと思います。

◆ 和声法（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

毎回、プリントを準備して理解を促しました。

2. 今後の授業における目標

和声の理解を無理なく進めて行きたいです。

3. 受講学生に対する要望

プリントは必ず消化してください。

◆ 音楽療法演習（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

二人一組になってセッション内容を組み立てる方法は、お互いの意見を伝えやすく何度も練り直しが効く、また、それを他のグループの前で発表し合うことは学生同士の学びの場となる。これらを毎回の授業終了前に書く学生の感想で確認しました。この授業の進め方は今後も続けていきたいと思っています。

しかし、発表し終えた後の振り返りでは、学生のこれからの成長に期待し過ぎて、初心者には難しいことを伝えてしまうことがあったかと思っています。

2. 今後の授業における目標

これから音楽療法を学んでいこうとする一年生に対して、初心者だったころの自分と照らし合わせながら進めていきたいと思っています。また、すぐにできるようになることと、何度も繰り返していく中で積み上げられるものをきちんと把握したうえで助言する必要があると思いました。

3. 受講学生に対する要望

音楽療法の魅力は楽しみながら人と人を繋げられるところです。授業も同じで楽しみながらお互いに成長できる環境を作っていきたいと思っています。出来たことは自分の武器に、つまずいたことは自分の宝にしてほしいと思います。

相手は人間です。本気でどれだけ向き合うかが全てだと思います。

◆ ソルフェージュ（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

シラバスについて・・・内容の説明のみにとどまり、詳しい説明が欠如していたと思います。

2. 今後の授業における目標

詳細な進捗、目標の説明を学生に承知させる必要を感じています。

この授業では、一人一人のレベルに差がある為、個々の課題を明確にし、次へのステップとしたい。

3. 受講学生に対する要望

予習と復習が必須の授業なので、根気よく頑張ってもらいたいと思います。

◆ スポーツ・レクリエーションⅢ（幼3・音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の中での課題提出が毎回あることに疑問を持つアンケート結果があった。高等教育においては、課題を毎回出すことを言われている。授業内で解答できる程度の課題であるにも関わらず、アンケートの返答がこうであるのが残念である。過去数年前は、回答を翌日ではなく、数日おいていたが提出率は、翌日期限のほうがあがっている。内容も翌日までの時の方が、明確な内容で理解度も深いと感じている。ただ、期限を過ぎても出せるように配慮しているので、このまま課題は毎回、授業を振り返り、翌日までに提出させ、学習の理解度、また、質問には、翌週応え、対応できる内容ですめたい。

2. 今後の授業における目標

課題の必要性を明確にさせたい。

3. 受講学生に対する要望

卒業学年でのレクリエーション授業は、「楽しい」を作る側になれることが目標である。参加者に主体性を持たせ、自ら学び、楽しくできるように、指導者は、どうすすめるか良いのか学んできたことを企画・実践できる時間であってほしい。

◆ 電子オルガン演習Ⅱ（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

コメントありがとうございました。

一人一人の進捗状況に合わせての授業に取り組めた事が結果につながったと思います。学生自身に達成感を感じてもらえ嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

毎回の授業の目標を明確にし、達成するために学生の進捗状況を考慮しながら授業を進めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

わからない事、困った事などあれば質問して下さい。一緒に解決しましょう。

◆ 電子オルガンⅣ（音2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業内容、進め方は、問題なく良かったと思います。

2. 今後の授業における目標

授業外での課題の取り組み方について、もっと具体的に指示し、経過にも気を配り、学生が課題をクリアできるようにサポートする。

3. 受講学生に対する要望

わからない事は、放置しないで質問し、理解できるように努力して下さい。

【歯科衛生学科】

◆ 栄養生化学（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

以前から取り組んでいるアクティブラーニングを引き続き行い、昨年度までのものからアップデートし実施した。その甲斐あって良い評価となり嬉しく感じている。

2. 今後の授業における目標

学生による発表の時間なども取り入れ、学生の自主性・積極性を引き出していける様、工夫していきたい。

3. 受講学生に対する要望

皆さんはまだ学問の入り口に立ったばかりで、さらなる知識理解のために継続的な学びを積極的に行って頂きたいです。

◆ 歯周病予防技術法Ⅱ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取組に対する評価」では「マナー」「意欲」が4.0であった。この科目は、相互実習も多くマナーはしっかり守らないと困るので、普段から厳しく指導していた。学生はしっかりマナーを守り意欲的に取り組んで授業を受けてくれて嬉しく思う。「授業に対する評価」の「進度レベル」が他の項目よりやや低い。全体的に見回り、学生一人一人確認してはいるが学生それぞれの理解度が違うのでなかなか難しく感じる。

2. 今後の授業における目標

「自己の取組に対する評価」の「時間外学修」ではほかの項目よりやや低かった。この科目は、1回授業を受けただけでは修得できないので練習が必要である。そのため、学生が自ら練習できるようにもっと促したい。学生それぞれ理解度は違うので、分からない時は分からないと言える環境を作るようにしたい。

3. 受講学生に対する要望

練習を積み重ねて修得してほしい。理解できない時などあれば遠慮なく聞いてほしい。

◆ 発達口腔保健学（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業内で実施した成績に関係ない（反映しない）小テストが、授業や定期テスト対策に役立つというコメントが多かった。今後も復習に役立つような小テストを実施したいと思います。

また、実践的な歯科保健指導に役立つような簡単な実習等を取り入れ、課題を提出してもらいました。皆さんの課題に取り組む姿勢がとても素晴らしかったです。

2. 今後の授業における目標

重要なこと（定期試験に出題する記述問題）は繰り返し授業内で説明しましたが、十分に伝わらなかったことがありました。今度は、分かりやすい（理解しやすい）説明を心がけたいと思います。

今回、授業内で実施した小テストは記述形式でした。今後は、国家試験を意識した形式（選択問題）の小テストも取り入れることで、より定期試験対策、国家試験対策に役立つよう努めたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

本科目は2年次に開講される「発達口腔保健演習」に繋がる科目です。「発達口腔保健演習」は学習範囲が広いので、授業ごとに必ず復習をするように心がけてください。

「発達口腔保健学」「発達口腔保健演習」ともに国家試験頻出問題が多く、歯科衛生士として必要な

知識ばかりです。1日1日を大切に、勉強や実習に取り組んでください。

◆ 診療補助基礎Ⅱ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

・前期に引き続き、自己の取組に対する評価の「マナー」の評価が高い数字でした。2年生に進級すると臨床臨地実習も始まるので、引き続き身だしなみ・時間・期限などを意識してほしいです。

・印象採得についての動画を作成し、自宅学習でも正しい手技を確認できるようにしました。再生回数も伸び、学生が動画を活用してくれているのを実感しました。今後もICTを活用し学校外でも学習に取り組める環境を作りたいです。

2. 今後の授業における目標

・できるだけ臨床につながる授業を行います。

・実習では、「なぜ上手くいかないのか」、「なぜ上手くいったのか」学生が考えながら実習ができるよう指導します。

・担当教員が多い科目なので、一人一人に細かく指導できるよう全体を見て授業を実施します。

3. 受講学生に対する要望

・身だしなみ、時間・期限を守りましょう。

・相互実習は緊張感をもって行いましょう。

・教員の話をしっかり聞きましょう。自分で判断できない場合は、必ず教員に確認してください。

・メモを取る癖をつけましょう。

◆ 口腔解剖学Ⅱ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

今年度より担当となった専門教科であり、座学だけでなく歯型彫刻実習も含まれるため、自身の授業準備が大変であった。

2. 今後の授業における目標

顕微鏡を用いた実習も組み込みたいところではあるが、それ以前に歯の形態、根の形態など歯科衛生士として仕事をする上で必要となってくる歯の解剖を理解させることが一番重要と感じている。そのためには座学の部分でどのような授業展開を行えばよいか、今一度シラバスの内容と講義内容を確認しつつ、PowerPointの画像や図を充実させたい。

3. 受講学生に対する要望

勉強だと思えば授業や実習も億劫になるでしょう。知らないことを知ろうと思う好奇心で興味を持つと授業も実習も楽しくなるはずです。まずは教科書を読んでみましょう。

◆ 口腔衛生学Ⅱ（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

1年目から専門的な用語が沢山あるなかで「理解する事ができた」「知ることができてよかった」などの良い声をいただけたことに嬉しく思います。この感想は、学生さん本人の努力もありますが、私自身も少しでも理解できるよう意識し工夫をした事、スライドや配布資料もブラッシュアップさせた事だと考えています。

2. 今後の授業における目標

学生さんから改善して欲しいところに「プリントの字が小さい」という指摘がありましたので、まずは、そこを修正します。項目の評価では、時間外学修のポイントが少し低いので、時間外学修ができるよう授業内で何かきっかけになるものをこちらから提示していきたいと考えます。また口腔衛生学という科目だけでなく歯科にもっと興味を持ってもらう事ではないかと思うので、工夫した授

業展開にしたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

質問や要望などありましたら、授業前または授業後に気軽に声をかけてください。

また、口腔保健衛生に関係する記事やニュース（健康、国が行う保健対策、ケア用品など）、気になるワード等を積極的に調べたりしましょう。

◆ 歯科放射線学（歯1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

自由席が嫌だという意見があった。自由席だと、学生同士が講義に集中しないことが問題なのかもしれないが、なんとも受動的な生徒の意見だと感じる。

まい講義ごとにレジメを作成して、パワーポイントを作り、授業準備を怠らなかった。

2. 今後の授業における目標

わかりやすい講義を心がけてきたし、今後もそうしていく予定。

講義に集中しない学生をどのように、講義に集中させるかが課題。

3. 受講学生に対する要望

講義に臨む以前の、授業を受けるにあたって不適切な態度は改善してほしい。

◆ 医療保険（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

自由席はやめてほしいという意見と、友達と相談しあってよかったという、相矛盾する意見があった。

この講義の獲得目標を設定しづらく、講義準備にずいぶん悩んだ。

2. 今後の授業における目標

すべての学生が満足する授業などありえず、最大公約数的なところを模索したつもりなので、少数意見をすべて取り上げて改善するのは難しいのではないかと思う。

3. 受講学生に対する要望

国家試験があるので、ひとつひとつの授業を大切にしてほしい。

◆ 診療補助応用Ⅲ（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

本大学に着任して最初に担当した授業であったため、前週に1から授業資料を作成するなど、準備が不十分であったこともあり、事前の連絡等が十分でなかった。そのことが、改善点として指摘されていたのだと考える。来年度は、事前の連絡など早めの準備を徹底したい。

2. 今後の授業における目標

わかりやすい資料の作成と授業を心がける。授業内容について見直しをはかる。具体的には、臨床検査の内容を充実し、全身状態の指標となる検査値の理解度が高まるような内容を含めたい。

3. 受講学生に対する要望

私の話を真摯に聞いてくれて感謝している。今後も授業に集中して臨んでくれるよう希望する。

◆ 診療補助応用Ⅲ（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の組み立て方としては、好評価をもらっている。今後も、前回の復習後、確認テストをすることは、継続をしていくと良いと思う。また、実習後の実技も同じく好評価を得ることが出来た。実習に関しては、器具、器材の関係で、全員が実習することが出来ないため、もう少し、器具を増やし実

習できる環境を整えることで、検査の意義を理解できると感じる。

2. 今後の授業における目標

事前の掲示に関しては、もう少し分かり易い工夫をしていくようにしていきたい。また、実習時間をもう少し増やすことで、全員が取り扱えるように考えていきたい。

確認テストに置いては、復習後に行っているが、点数としてはもう少し取れるように、学生に質問形式にして復習をすることを取り入れることで、分からないところをより理解できるようにしていくようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

もう少し、積極的に分からないところを質問して欲しい。また、実習においても自主的に参加して実施して欲しい。

◆ 口腔健康管理演習（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

専門のテキストがあるだけでなく、自身の口腔の健康を管理できない方へどのような衛生管理ができるかを考え、実習で学んでいく授業内容のため、いかに興味を持ってもらえるかを意識して授業を進行した結果が出たようで嬉しく思う。

2. 今後の授業における目標

学生に少しでも興味を持ってもらえるような、楽しいと感じてもらえるような授業内容や進行ができるように工夫していこうと思う。それが今後の国家資格取得や仕事への意欲に繋がると考える。また、授業アンケートの回答率が100%でなかかったのが残念であった。欠席者がいたこともあるが、実習授業の際に取ったからだと考え、次年度は落ち着いて回答できる環境で取ろうと思う。

3. 受講学生に対する要望

学校以外でも趣味やアルバイト、友人付き合いなど多忙な学生生活だと思うので、授業時間内に理解できるように集中して積極的に取り組んでもらえると自身のためになると思う。

◆ 地域歯科保健活動Ⅰ（歯科2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に平均的な結果であった。この授業では、グループワークを中心としてライフステージごとの地域歯科保健に関する問題点の理解と、それに対する指導内容を検討し、子育てサロンや同年代の方へ歯科保健指導を行う実習である。実際の歯科保健指導に使用するリーフレットの作成や歯科保健指導案の検討をしている。今回の結果では、改善点に関するコメントはなかった。しかし、授業構成が複雑で展開が早いため、受講生の皆さんがそれぞれのライフステージの理解を深める時間が不足しているのではないかと考える。また、初めて学科外の方(子育てサロンの参加者や幼児教育学科の学生など)へ歯科保健指導を行う実習である。それを体験することで受講生の皆さんに「できた」という「達成感」を感じてもらうことが重要であるとも考えた。

2. 今後の授業における目標

この授業では、限られた時間の中で多くの体験をすることになる。そのため、受講生の皆さんには「今何をしているのか」「今後どのような展開になるのか」を明確化していく。また、「振り返りシート」を活用して、学修の振り返りをすることで授業内容の理解を深め、次の授業へ活かしていけるような授業展開ができるようにする。

3. 受講学生に対する要望

グループワーク中心の授業です。ワーク中に分からないことがあれば積極的に質問をしてください。歯科保健指導を行うためには準備が欠かせません。準備の大変さもありますが、歯科保健指導ができるようになったことに対する喜びも感じてください。

◆ 臨床医学（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・リハビリテーション分野の実務についての映像は、馴染みのない事柄でも印象に残ると思われる内容を厳選して上映しました。講義で取り上げた内容はリハビリテーション分野のごく一部ではありましたが、一定の理解を得ることができたと考えています。
- ・実技については、なるべく多くの方が無理なくできる運動を選びました。実践していかなければわからない身体機能に関する気づきを促すことができたと思います。

2. 今後の授業における目標

- ・医学は日々進歩していきませんが、講義内容もアップデートしていければと思います。顎関節や嚥下機能に影響を及ぼすと考えられる姿勢について、頭部だけではなく全身のアライメントについても掘り下げることができればと考えています。
- ・出欠は座席表を目視で確認するのみでしたが、確実性を上げるために来年度は点呼して確認していきます。
- ・小テスト等、ICTの活用を継続します。

3. 受講学生に対する要望

- ・欠席回数が多いと単位の取得を認めることができなくなるのでご注意ください。
- ・提出物はICTを用います。また、Google classroomを用いたフィードバックも行います。スマートフォンの操作方法、設定について、あらかじめ準備をお願いいたします。

◆ 衛生行政・社会福祉学（歯2）

1. 授業評価の結果に対するコメント

本科目は法律関連が多く敬遠されがちであるのでわかりやすく説明する工夫が必要と思う。

2. 今後の授業における目標

テキストを中心にしつつ重要な項目や話題性のあることについては新聞その他信頼のある資料などを活用したい。

3. 受講学生に対する要望

社会について視野を広くするため新聞等社会情勢への興味を持ってほしい。国が公表する種々の調査結果等から予測される事柄を文章で説明する力をつけるため、日ごろから新聞などで公表される調査項目に興味を持ってほしい。

教養科目

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

回ごとに内容が違うオムニバス形式であることから、「受講して良かったところ」という記述式の設問でも、全員の上げている回がバラバラなのが、この授業の特徴をよく表していると思ったが、評価は高いといってよい結果だと思う。長く続いている科目だが、学校全体でも各学科でも、より学生の糧になるようにと、常にテーマ・内容をブラッシュアップしていることの表れだと感じた。

2. 今後の授業における目標

今後もテーマ・内容の吟味を続け、より学生の糧になるようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

こんなものはどうだろう、あんなのはどうかと、教員と職員が様々に考えをめぐらして作り上げている授業ですが、受け取る側の姿勢によって、身になり方の軽重は変わります。毎回の内容の違い

を、前向きに楽しむ姿勢で受講してください。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（デ1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

回ごとに内容が違うオムニバス形式であることから、「受講して良かったところ」という記述式の設問でも、全員の上げている回がバラバラなのが、この授業の特徴をよく表していると思ったが、評価は高いといってよい結果だと思う。長く続いている科目だが、学校全体でも各学科でも、より学生の糧になるようにと、常にテーマ・内容をブラッシュアップしていることの表れだと感じた。

2. 今後の授業における目標

今後もテーマ・内容の吟味を続け、より学生の糧になるようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

こんなものはどうだろう、あんなのはどうかと、教員と職員が様々に考えをめぐらして作り上げている授業ですが、受け取る側の姿勢によって、身になり方の軽重は変わります。毎回の内容の違いを、前向きに楽しむ姿勢で受講してください。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

就職に向けた内容になっており重要な科目だと思います。今後も就職活動の役に立つ内容や身に付けられるスキルを増やせるよう丁寧に指導をしていきたい。

2. 今後の授業における目標

就職に必要となる、マナー・言葉遣いの講義を通して面接などの実践練習を増やし本番に役に立つ内容になるよう講義内容を見直していきたい。

3. 受講学生に対する要望

就職活動に必要なコミュニケーション能力を身に付けるためにも、日頃から周りの人への挨拶、言葉遣いなどを学んだことを活かして率先して行ってもらいたい。

◆ 教養・キャリア基礎演習Ⅱ（音1）

1. 授業評価の結果に対するコメント

社会人として必要なマナーや知識が学べて良かった、などの良い評価が多くみられた。

基礎ゼミに関しても良い意見があり、コミュニケーション能力を向上させるいい機会だったと感じた。

2. 今後の授業における目標

終了時間に終わらず次の授業に間に合わないとのコメントがありました。授業時間内に学修記録ノートを書き終えられるよう、講義の時間配分を考える必要がある。

3. 受講学生に対する要望

就職活動の準備をしっかりと行い、2年次の就職活動に役立たせてください。

◆ 教養キャリア基礎演習Ⅱ（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

発表という試験の方法に関して少々疑問が残るが、オムニバスの授業であり、発表以外の試験方法に代替案があるのか、となると微妙である。発表時のスーツに関しては、前年度のアンケートで「寒いのでやめて欲しい」という意見が多数あったので、「発表に相応しい服装」に変更して行った。今回服装に関する不満は出ず、多少なりとも改善には役に立ったかな、という印象である。

2. 今後の授業における目標

直接講義を行う立場ではなく、どちらかというとなマネージメントのような立ち位置なので、滞りない進捗を目標としたい。

3. 受講学生に対する要望

専門教科ではまず聞けない授業や、グループに分かれてチームワークを考える必要がある場面も出てくる授業です。必修ですので必ず出席するようにして下さい

◆ 心理学（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

項目得点や自由記述のコメントから、授業の目的が学生たちにしっかりと伝わり、心理学に対する親しみや興味を持つきっかけとなったことがわかった。毎回の授業の冒頭にコーナーとして設けている海外経験の紹介も、国際的な視野の広がりや多様な他者の理解に繋がり、授業内容に深みを持たせる効果があるようなので、今後も充実させ継続していく。

2. 今後の授業における目標

授業内容については平均以上の評価が得られたものの、「授業環境」だけは私語をする学生が居た1限目で低く、自由記述にもそのことに言及するコメントがあった。授業環境の整備は教員の責任であるため、全ての学生が居心地よく授業を受けられる環境を作れるようにする。

3. 受講学生に対する要望

心理学の授業で得た知識や技法、視点を今後の人生でもぜひ活用してください。日常生活の中で「あ、これ、心理学の授業で出て来たことだ」と思い出してもらえると良いです。

インターネットを介した匿名での意見交流(Slido)はハードルも低いのでぜひ参加してください。受講学生同士の理解が深まると対面で行うペアワークやグループワークでの発言もしやすくなります。

◆ スポーツ演習Ⅱ（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

スポーツをとおして、日常の健康づくりの意識や、仲間とのコミュニケーション力を高めることを目標として授業を展開しました。様々なスポーツを学科の枠を超え取り組めたことで、運動不足の解消や仲間との一体感を感じ楽しい時間を過ごせたとの感想から、運動の良さや大切さを伝えることができたのではないかと思います。一方、学生の自己の取組に対する評価での時間外学修の評価が平均より低い結果となりました。この授業では日々の生活の中で健康を意識した行動を時間外の課題としましたが、その点を十分に伝えきれなかったところが反省点です。授業の取組に対する評価では、授業の工夫の項目が一番低い評価でした。運動技能に個人差があっても同じように運動できる授業づくりを心掛けましたが、運動が得意な学生やとても苦手になっている学生にも達成感や充実感が味わえる工夫が必要であったと考えます。

2. 今後の授業における目標

スポーツをとおして、運動技能を高めるだけでなく、運動を楽しみ心と体を元気にすることを今後も大切にし授業づくりに努めます。授業外課題の提示の仕方については、具体的に運動に取り組めるストレッチやエクササイズを提示したり、時間外に取り組んだ成果を報告する仕組みを用意したりして日常的に運動に触れられるよう工夫します。また、3学科の学生が受講しており、学科を超えた仲間づくりにも重点を置き授業を展開します。スポーツならではの、勝敗への意識・目標設定の動機付けや、ルールの遵守等の公正公平の倫理観についての学びを大切にしていきます。

3. 受講学生に対する要望

授業に意欲的に取り組んでいる学生が多いため、学生同士の励ましや応援する声が多く聞かれ良い雰囲気での活動が展開でき、みなさんに感謝しています。今後も、友だちや家族と時にはスポーツや

レクリエーションに参加するなど、心も体も健康的な生活を送ってほしいと願っています。

◆ 情報活用（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前期情報科学（教養）の発展・応用の内容として授業を進めてきたが、情報科学で身に付けた力を活かして演習に意欲的に取り組む姿があった。課題演習や情報セキュリティ理解の学修に真面目に取り組む学生が多く、良い授業評価を得られることができた。

2. 今後の授業における目標

一人一人の学修の進み具合を確認しながら、演習課題の内容や資料の準備でさらに工夫改善をしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

演習課題の進み具合で、よくわからないときやうまく結果が導き出せないときなど、担当教員や周りの仲間に積極的に質問するなどして、課題解決ができる力を身に付けてほしい。

◆ 外国語コミュニケーションⅡ（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・成果は、英語を楽しく学べた、英語を通じて様々な社会問題について考えることができた、基礎的な事項についてより理解できた等、ポジティブな評価を受けることができたことである。
- ・課題は、ペアワークを通じて学科の違う人と仲良くなれて良かったとの回答がある一方、ペアの相手によっては楽しく授業が受けられなかったとの回答があったことである。

2. 今後の授業における目標

- ・英語の習得だけを目標とするのではなく、英語を通じて社会問題に対する興味がより一層高まるよう、授業内容の充実を図りたい。
- ・定期的にペアを替えることによって、どのような反応が得られるか試行したい。

3. 受講学生に対する要望

- ・費用を掛けなくても、英語を学習する方法が数限りなくある、恵まれた時代になりました。本授業で、英語や英語学習に興味を持った人は、目標を設定して、学習を継続してください。

◆ 子ども学入門（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

具体的な資料提示や児童玩具の製作、時間外学修の課題を通して、自己の育ちを振り返ったり、将来を想像したりすることで、子どもの発達や特性などの知識、具体的な関わり方についての学びを深めてくれた。社会の一員として、子育てや子育て支援の大切さを理解してくれたと感じている。

2. 今後の授業における目標

学修内容の精選、配付資料やスライドの改良を行う。また、学生の思考や意見を交流する場を増やし、学びの深化を促すよう努めたい。

3. 受講学生に対する要望

この授業を通して、子どもは人との関わりを通して育つことや子どもとともに大人が育つことなど、保育や子育ては人間の大切な営みであるとの理解を深めてくれて嬉しく思います。今後、大人として子どもに尊厳をもって関わること、さらには将来の生活設計の中で家族をもち、豊かな人生を創造してくれることを願っています。

◆ 暮らしの科学（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取組に対する評価：平均 3.7」「授業の取組に対する評価：平均 3.822」どちらもほぼすべて全学及び学科の評価点より高いものであった。唯一、「自己の取組に対する評価」の中の時間外学修が 0.2 低かった。全科目共通の教養の講義なので過剰な宿題等を出すことは学生さんの専門の講義への負担を増すこととなるので今後も宿題は課さないで授業中に集中して基盤的な知識を獲得できる講義内容を提供することに専念すべきだと思っています。

自由記述欄においても「むつかしい内容もゆっくりわかりやすく説明してくれた。」「身近な化学の話が詳しく聞けるので興味がすごく湧いて楽しかったです。先生の雑談や経験のお話とかも踏まえて話してくださるので聞いててわくわくしました。」など受講してよかったという意見のみで今後ももっと興味を持ってもらえるような身近な話題と生活に役立つ内容を提供できるよう取り込んでいく予定です。

2. 今後の授業における目標

衣食住に関わる毎日の生活の中で起こる様々な事象を科学的な目線にとらえ、理解してもらえる内容を常に伝え続けていきたい。あまり何も考えないで見過ごしている現象も科学的に説明していくことで理解が広まるとともに原理・原則をしっかりと理解して生活することで、より合理的で安全で楽しい生活ができることを実感してもらえる内容である。

今後も継続して学生さんたちが卒業後も役立ち、意識的に次世代に伝えたいくなるワクワクするような内容を教授していくつもりである。

3. 受講学生に対する要望

日常生活の中で何気なく過ごしていても毎日は過ぎていきますが、「なぜ？ どうして？」という気持ちもしくは「この現象ってどう説明できるの？」といった考えてみようとする姿勢や意識は今後の生活を生き抜いていくにあたりとても重要で明るく楽しく安全に生活していく糧となります。日常生活におけるほとんどすべての現象や電化製品や商品の原理などは科学的業績のたまものです。その視点で日々の生活が送れるようになる講義ですので日々の生活の中で起こる現象を好奇心持って見つめてほしいと思います。

それによって家族や友達や結婚後の自分の子どもたちにもついつい話したくなったり、説明したくなることをいっぱい講義の中でお話しています。この講義でいっぱい聞いたことに加え、疑問に思ったことを自分自身で「なぜ？ どうして？」という気持ちで探求する姿勢をもって日々の生活を過ごしてほしいと思います。

◆ 美術入門（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の取り組みに対する自己評価のデータから、時間外学修の項目が専門学科より低くなっている。自分自身の意識として、専門科の学習に対し教養科目の時間外学習課題を過重にしないような配慮を心掛けている。そのため課題として示しているのは、日常生活を送る中で授業に関連した事象に興味関心を持ち、メディアなどを活用して意識的に学修内容に触れることとしている。その趣旨がよく伝わっていなかったのではと考える。授業の取り組みに対する評価については概ね良かったようなデータである。昨年度の授業評価を基に授業改善を心掛け、学生にフィットした学修量および意欲を喚起する方法を工夫した。シラバスの項目が最も低いことについて考えられる原因として、授業の第 1 時間目に丁寧に説明したのみで、その後は定期試験に係ること以外はあまり触れることがなかったことと、欠席した学生については、後での個別説明がざっくりしていたかもしれない。

2. 今後の授業における目標

より授業法を研究し、学生が学修目標を達成できるよう魅力的な授業を展開していきたい。特に、時間外学修との関連付けができるよう、毎授業時において簡単な「今週の体験」を互いに共有できる

ような工夫を取り入れたい。また、コメントの中で美術館の入館料のことについて言及があったので、ギャラリーでの鑑賞のススメや、店舗の紹介や企画の紹介などをより積極的具体的に提示していきたい。美術との新たな出会いになり自身の人生を豊かにする教養としての学びを推進できるよう、今年度の学生の意見を参考にしてブラッシュアップしたい。

3. 受講学生に対する要望

授業に対して前向きに参加していて受講姿勢は基本的には良いが、もう少し積極的に意見発表など出来るとより良いと思う。また、15時間の授業内容は、すべて1時間完結のテーマでありながら相互の繋がりも持たせている。全ての授業を受講すると、きっと楽しいと思ってもらえるように準備しているので、出来るだけ欠席をしないようにしてほしい。

◆ 地域の歴史と文化（教養）

1. 授業評価の結果に対するコメント

概ね良好だが、授業の進み具合でシラバスどおりにいかない面があった。

2. 今後の授業における目標

学生の興味関心に応じてシラバスの工夫改善を行う。

3. 受講学生に対する要望

積極的に自己表現する意欲を持ってほしい。

本学の教職員は これからも
学生の皆さんの学びをさらに深めるために
よりより授業づくりへの努力を続けます

学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生のみなさんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。

総合評価の高かった教員を対象に顕彰が行われています。
令和5年度後期は以下の授業の担当教員が顕彰の対象になりました。

動画基礎 I（デザイン美術学科）
美術入門（教養科目）